

沖縄型金型

〈13〉

芽吹く技術

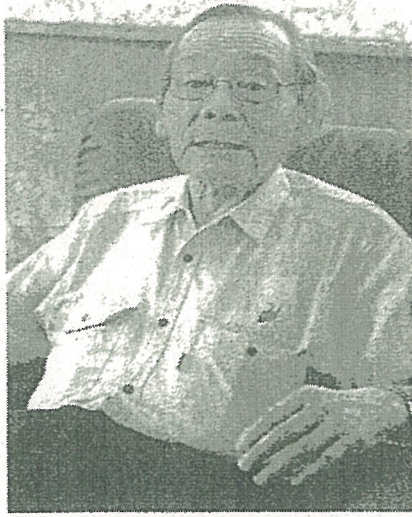
ライプ(HDD)用の超精
密部品や排ガス浄化用触
媒を生産するための金型

などを製造している。上田
勝弘社長に沖縄進出の理由
や事業展開などを聞いた。

「沖縄進出の理由は、
「沖縄工場を設立する前
には長崎工場も立ち上げて
いる。理由はリスク分散
だ。生産する製品は世界シ

ある。取引の規模は拡大す
ると見込んでいる。沖縄工
場はその専用工場としてス
タートしている。ハニカム
金型は小型の金型製品で、
輸送もしやすい。沖縄工場
向きの事業と判断した」

成には効率が悪く、かえつ
てコストがかかってしま
う。結局は国内でやる方が
有利だ。沖縄は年間で3千
人の工業系の卒業生がい
る。人材の多さは魅力だ」
「そのほかの利点は、
「温暖な環境も金型作り
に向いている。製品の安定
的な加工には工場内の温度
を一定に保つことが重要。
室内温度23度くらいにしな
いといけない。本土では寒
い時期に暖房費がかなりか
かるが、沖縄は一年通して
気温の変動が大きくないた
めコストを抑えられる。今
後、人員を増やし事業規模
を拡大していきたい」



上田勝弘社長
大垣精工(岐阜県)

2011年1月にうるま
市の素形材産業向け賃貸工
場に入居した大垣精工(岐
阜県)。ハードディスクド

沖縄工場でリスク分散

エアが高く、HDDは数量
だと40%くらいだ。問題は
そのシエアの高さ。本社工
力所のみでの生産体制では
大手顧客の懸念が大きい。
エンドユーザーも安心して
発注できない」

手掛けている。排ガス浄化
用触媒を生産するための金
型だ。その触媒は自動車や
二輪車などが排出する有害
な一酸化炭素などを浄化す
る部品で、排ガスを低減す
るグリーン産業の分野で活
用される。社会的需要があ
り、大手からの引き合いも

者卵が輩出されている。
国内の金型産業は技術競争
力の強化に向け、人材の確
保が課題だ。一方、人件費
削減の目的で海外に工場を
設置する企業がいる。しか
し中国など海外は教育して
も転職を繰り返す。人材育

「聞き手 謝花史哲
(水—金曜掲載)